

論 文 要 旨

2019 年 9 月 13 日

※報告番号	甲第 248 号	氏 名	中村 弘
<p>主論文題名</p> <p>「1890～1981 年の銀行建物に関する研究 ―銀行の大衆化と建物外観の建築要素の変化―」</p>			
<p>内容の要旨</p> <p>[背景]</p> <p>1872 年に東京府兜町に建設された第一国立銀行から始まった銀行建物は、現在まで 140 年以上の間どのような変化をしてきたのか。銀行は明治以降、資本主義社会の成立に中心的な役割を果たしてきた。同時に、銀行の経営資源である銀行建物は国内の近代・現代建築に対してもパトロンとしての役割を担ってきた。1996 年以降の金融制度改革を契機に、国内銀行では銀行法以来約 70 年間継続してきたビジネスモデルが構造不況化して、産業の改革が必要とされている。国内銀行では経営方針の変化に対応して、経営資源である銀行建物・店舗について新しい機能やかたちの次世代型店舗を模索している。新しい銀行建物・店舗を考えるとときに、これまでの銀行建物の変遷、銀行業務と銀行建物の関係についての検証は一示唆となり得る。</p> <p>[目的]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1890～1981 年の銀行建物外観について通史的な変遷を概観すること。 2. 銀行建物外観の変化について銀行業務の変化を視点として、銀行建物外観の変化と銀行業務の変化の関係を検証すること。 <p>[研究方法]</p> <p>銀行建物は銀行業を目的としていることから、業務基準となる業法制度の画期を研究の画期に設定した。国内における銀行法人としての継続性、金融上の影響力（シェア）、銀行建物建設に関する組織性などから都市銀行 5 行（三井・三菱・安田・住友・第一）を研究対象とした。また、1960 年代から始まった銀行の大衆化を銀行業務の変化として捉え、銀行法をもとに 3 つの銀行業務の指標によって銀行の大衆化という銀行業務の変化を検証した。そして銀行業務の変化と銀行建物外観の変化を時間軸で照合して関係性を考察した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1890～1929 年の銀行建物 2. 1930～1981 年の銀行建物 <p>調査対象期間の国内建築および建築様式に関する文献資料から、建築様式を構成する建築要素 20 項目（角地、窓防護、外装石、ルスティカ、ベースメント、ペロン、ポルティコ、オーダー、コーニス、ペディメント、パラディアン窓、欄干、レリーフ、アーチ、平屋根、勾配屋根、切妻壁、胸壁、隅櫓、ドーム）を抽出。1890～1929 年および 1930～1981 年に竣工した銀行建物事例 121 件、149 件と照合して建物外観での建築要素の有無を調査した。</p>			

※印欄記入不要

3. 銀行の大衆化と銀行建物

以下の 3 点を銀行業務の指標として、銀行の大衆化という業務の変化を調査した。

- ①個人取引に関する銀行の経営方針および銀行の金融商品やサービス
- ②銀行の個人取引に関する勘定（預金・貸出・家計貯蓄率・定期預金額など）
- ③個人取引を目的とした銀行店舗の地域的な配置展開

[結論]

(1) 1890～1929 年の銀行建物

- ①1890 年以降の銀行建物外観では、1920 年前後から 10 項目の建築要素（角地、窓防護、外装石、ベースメント、ペロン、オーダー、コーニス、レリーフ、平屋根、アーチ）が共通して確認されている。
- ②折衷主義建築とされる明治・大正期において、1890～1929 年の銀行建物では建築様式だけでなく建築要素についても取捨・組合せ整理（折衷）されて建物外観がつけられている。
- ③60%以上の銀行建物で採用されていた建築要素 9 項目（①のうちアーチ以外）のうち、オーダーとレリーフは装飾的な建築要素であり、その他の建築要素 7 項目は銀行建物における機能性を有している。

(2) 1930～1981 年の銀行建物

- ④1890～1929 年の銀行建物の外観に共通する建築要素 10 項目のうち、1930 年以降も採用された建築要素は角地と平屋根の 2 要素のみ。ほかの建築要素 8 項目については、オーダー、レリーフ、アーチは 1944 年前後、ベースメントは 1950 年前後、窓防護、外装石、ペロン、コーニスは 1962 年前後で銀行建物から確認されなくなっている。
- ⑤建築要素による 1930～1981 年の銀行建物外観については、段階的に古典主義様式の外観から機能的・現代的な外観に変化していることが確認された。1930～1950 年前後は古典主義様式の建築要素をもった銀行建物が確認され、1946 年前後からは古典主義様式の構成やモチーフを継承した機能的・現代的な銀行建物外観が確認され始めて、1962 年前後まで確認されている。1962 年前後以降は、カーテンウォールや硝子による外観の銀行建物に変化している。

(3) 銀行の大衆化と銀行建物外観の建築要素の変化

- ⑥個人取引への経営方針および金融商品の展開に対応して、古典主義様式の建築要素による重厚・威厳などをイメージさせる銀行建物外観から、古典主義様式の構成やモチーフを採用しながら明るく入りやすい銀行建物外観へと変化している。銀行取引の対象顧客が変化したことに合わせて銀行建物外観も変えられたことが確認された。
- ⑦銀行店舗では、地域の特性、その店舗が対象とする顧客（都心 3 区の主に法人と都心周辺部および市部の主に個人）に合わせた銀行建物外観の変化があること、都心 3 区内の銀行建物外観における 1890～1929 年の銀行建物外観に共通する建築要素の減少は、都心 3 区以外の銀行建物外観より年代的に遅いことが確認された。

※印欄記入不要